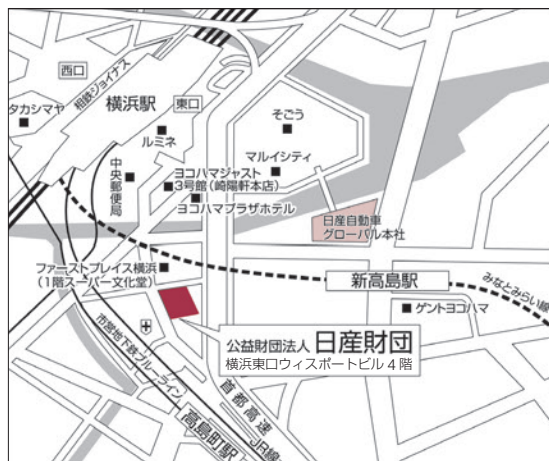


NISSAN GLOBAL FOUNDATION

公益財団法人 **日産財団**
2016年度 活動報告書



公益財団法人
日産財団
NISSAN GLOBAL FOUNDATION
ひとを育て、未来に夢を…

〒220-0011
横浜市西区高島 2-6-32 横浜東口ウィスパートビル 4 階
TEL 045-620-9780 / FAX 045-620-9781
ホームページ：
<http://www.nissan-zaidan.or.jp/>

■ ビジョン

人材育成を通じて、豊かな未来社会の実現を目指します

■ ミッション

未来を切り拓くグローバルに活躍する人材の育成

- 1) 未来を担う子どもたちの能力開発実践を支援します。
- 2) 未来のための教育の進化と、教育実践者の成長に貢献します。
- 3) グローバルに活躍するリーダーの育成に貢献します。

■ 日産財団の活動



■ ごあいさつ



理事長 志賀 俊之

公益財団法人日産財団は、1974年に日産自動車により「日産科学振興財団」として設立され、科学技術立国の基盤を支える学術研究に対して助成を行ってまいりました。その後、財団活動の教育分野への拡大とグローバル化の流れの中で、2011年の公益法人化に伴い法人名称を「公益財団法人日産財団（英語名：Nissan Global Foundation）」とし、活動領域を人材育成へとシフトしてまいりました。現在、この財団のミッションを「未来を切り拓くグローバル人材の育成」と置き、諸事業を展開しています。

「理科教育助成」は、小中学校における優れた理科教育実践を助成・褒章する事業です。未来に活躍する人材として非常に重要な科学的思考能力や論理的思考能力が、初期の能力発達段階で効果的に開発されることを期待しています。2016年度は、助成対象校の地域拡大を図っています。

「わくわくサイエンスナビ」は、理科教育に携わる先生方を最先端研究現場に招き、そこでのわくわく感を子どもたちに伝えてもらうためのプログラムです。先生方を介して、多くの子どもに先端科学技術への興味が芽生えることを期待するとともに、先生方にとっても、未来の社会と教育を考える機会としていただければと思っています。

「逆風下の変革リーダーシップ養成講座 (GRLP: Global Resilient Leadership Program)」は、次世代の企業トップを目指す方に、世界一流のビジネススクールの理論と現役企業トップの実践を融合したリーダーシップ講座を提供する事業です。2016年度はこの事業を立ち上げて3年目となり、講座内容の充実を図るとともに、過去5回開催の成果をまとめた書籍を発行しました。

日産財団はこれらの事業を通じて、豊かな未来社会の実現を目指してまいります。

■ 役員・評議員、選考委員名簿

役員

理事長	志賀 俊之	日産自動車(株) 副会長
副理事長	久村 春芳	日産自動車(株) フェロー
常務理事	原田 宏昭	公益財団法人日産財団 常務理事
理事	齋藤ウィリアム浩幸	(株)インテカー 代表取締役
	田嶋 潔	フジサンケイグループ事務局 部長
	根来 龍之	早稲田大学商学研究科(MBAコース) 教授
	美馬のゆり	公立はこだて未来大学 教授

監査

監事	太田 建司	公認会計士
	久保 英明	日産自動車(株) グローバル内部監査室 チーフインテグナルオーディット オフィサー

評議員

評議員	加藤 毅	筑波大学 准教授
	黒田 玲子	東京理科大学 教授
	島田 京子	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事
	羽鳥 賢一	慶應義塾大学 特任教授
	土井 三浩	日産自動車(株) 総合研究所 アライアンスグローバルダイレクター
	濱口 貞行	日産自動車(株) グローバルコミュニケーション本部 グローバル企業広報部 部長

選考委員

選考委員長	西本 清一	京都市産業技術研究所 理事長
選考委員	加藤 圭司	横浜国立大学 教授
	千葉 養伍	福島大学 教授
	人見 久城	宇都宮大学 教授
	森藤 義孝	福岡教育大学 教授

理科教育助成

子どもたちの科学的思考能力を向上させる教育実践や、教師の指導力を向上させる授業研究への助成です。対象地域は、神奈川県、福岡県、栃木県、福島県の4県で、教育委員会の推薦により、毎年30件以上の小・中学校を対象に、2年間で60万円の助成を行っています。2004年度からの13年間で助成総数は645件、助成総数は2億円を超えています。また助成終了後には、全ての助成校が「理科教育賞大賞」の選考対象候補となります。

理科教育賞

理科教育助成において多大な成果をあげ、かつ成果の波及効果が期待できる実践を各県から1件ずつ選出し、贈呈式で成果を発表していただきます。その結果、4件の中で最も優れたものには「大賞」を、それ以外の3件には「理科教育賞」を授与します。

また、2015年度から贈呈式会場で成果のポスターセッション賞を実施し、参加者の投票により「理科教育賞ポスターセッション賞」を決定しています。

賞金	理科教育賞 大賞 ▶ 100万円	理科教育賞 ▶ 50万円	理科教育賞 ポスターセッション賞 ▶ 20万円
----	------------------	--------------	-------------------------



受賞校の先生たちと選考委員



多数の来賓と参加者



ポスターセッション

Column

学校にも訪問して賞・盾を贈呈しました！

大賞、理科教育賞、ポスターセッション賞を受賞した地域に日産財団が訪問して、あらためて賞や盾の贈呈式を行っています。

福島県新地町立尚英中学校への「理科教育賞」の贈呈式では、教育委員会の教育長室で佐々木孝司教育長ご出席のもと、先生方に賞状と盾を贈呈しました。また、贈呈式のようなは、地元の新聞やタウン誌でも紹介され、町を挙げてよろこんでいただけていると感じました。



左3人目から佐々木教育長と、原教諭、星校長、金子教頭

助成対象校・団体の活動紹介

福島県 いわき市立湯本第一小学校

科学的な思考力を高める理科学習指導の工夫

授業の中で、「事象提示の工夫」「学び合い活動の工夫」「発展的、補充的な学習活動の工夫」という3つの学習活動の工夫を効果的に位置づけることにより、言語活動の充実と科学的な思考力を高めることを目指しました。

5年生の「流れる水の働き」の授業では、角ばった石が丸くなるメカニズムについて予想し、生花用吸水スポンジを石のモデルとして用いて検証し、話し合い活動を通じて結論を導きだしました。



気づいたことを書いていく



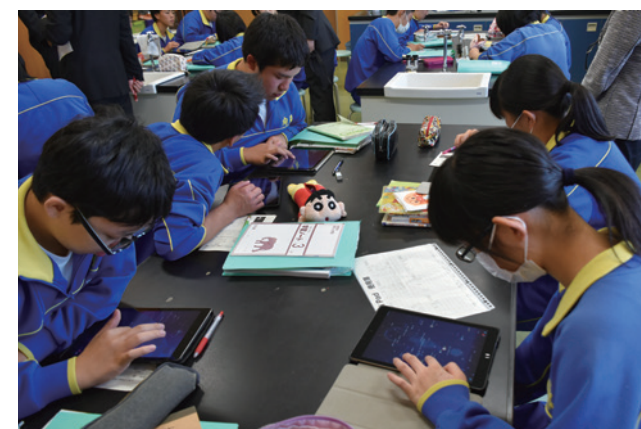
児童が意見を発表する

福島県 相馬市立向陽中学校

科学的思考能力が向上する指導方法の工夫と実践 ～ ICT機器の活用をととして～

日常生活や社会にかかわりのある科学的な事象を取り扱い、見通しや実証性、再現性、客観性を伴った体験を充実させた授業を実践することで、生徒の探求する力を高めることを目指しました。

3年生の「地球と宇宙」の授業では「どうして、昼間に星座はみえないのだろうか」という課題に対して生徒が予測を発表。昼間でも星座を観測できるiPadのアプリで星座を観測し、「星座の見え方は地球の位置によって変化する」とまとめました。



iPadの星座観測アプリを活用



観測の結果をまとめる

助成対象校・団体の活動紹介

栃木県 鹿沼市立上南摩小学校

ICTを活用した科学的な思考力・表現力の育成

自然環境に恵まれた立地と児童の興味・関心の高さ、豊かな知識をベースに、ICT(情報通信技術)の有効活用によって科学的な思考力・表現力を育成することを目指しました。

全校児童22名による学習発表会では、「上南摩の植物はかせになろう」をテーマに、タブレット端末で学校周辺の草木を撮影するなど観察を進め、その成果を発表しあいました。



全校児童による学習発表会



学校周辺で観察した草木を表にまとめる

神奈川県 横須賀市立公郷中学校

理科におけるユニバーサルデザインとアクティブラーニングの融合

どの生徒でも授業が分かるよう、授業環境づくりなどにユニバーサルデザインを取り入れてきました。さらに興味関心を学力の源と捉えて、アクティブラーニングの積極的導入によりより一層の学力向上を目指しました。

2年生の「電流・電圧の関係と抵抗」の授業では、「より多くの電流を流すには」というテーマを設定し、電熱線の断面積の違いにより、流れる電流の多さが異なってくるといった成果をプレゼンテーションしました。



各班で考察を深めていく



班どうしてプレゼンテーション

神奈川県 厚木市立戸室小学校

10分間で描く観察画の指導法と教材提示方法の開発

理科や生活科で観察したものを描かせる際、デジタルカメラなどで撮影した画像を模写するなどの利用法を考えました。描く手順やルールを提示し、10分間で観察画を完成させる指導法の確立を目指しました。

1年生の「いろいろな生き物を知ろう」の授業では、撮影された植物や昆虫の拡大画像を見ながら、児童がスケッチをしました。



授業のねらいなど児童に伝える



デジタル画像を見ながらスケッチ

福岡県 大刀洗町立大刀洗中学校

主体的に学び続ける生徒を育む理科学習指導の展開

顕微鏡を有効活用するなどして、肉眼で見ることのできない事象を生徒に観察させたり、教師が提示したりする活動を行い、その有効性を検証しました。

1年生の「水溶液」の単元の授業では、塩化アンモニウムが結晶化する様子を光学顕微鏡を用いて観察しました。結晶化現象が発生した理由を予想し、各班で意見を発表しあいました。



光学顕微鏡で塩化アンモニウムの結晶化を観察



結晶化現象について意見を発表

わくわくサイエンスナビ

より多くの子どもたちに科学のおもしろさ・大切さを伝えたい。それを実現するために、小・中学校の先生たちに最先端研究の現場に来ていただき、そこで体験するわくわく感を子どもたちに伝えていただくためのプログラムです。ニュースで話題にもなる科学の現場を訪ねます。

プログラムの流れ

小・中学校の先生たち参加者が、1日、最先端研究施設の見学、研究者との対話、オリジナルのサブテキストを使用したワークショップに臨みます。そして、そこでの「わくわく体験」を、学校などの教育現場に持ち帰り、子どもたちに伝えます。



1 研究施設の概要や研究についての解説を聴く



2 最先端研究の現場を見学する



3 研究者と対話する



5 学校で「わくわく体験」を子どもたちと共有する



4 ワークショップで授業案づくりに取り組む

Column

「わくわく」を授業に活用！

参加した先生から「授業で活用しました」という報告もいただいています。

栃木県小山市立小山城北小学校の根本泰隆先生は、理化学研究所で実施した「わくわくサイエンスナビ」に参加。ワークショップで発表した113番元素「ニホニウム」への研究者たちの挑戦を題材とする授業案を発展させて、学校で「挑戦する人」というテーマで授業を行いました。



児童たちが活発に意見を伝えあう

2016年度開催の「わくわくサイエンスナビ」

第1回 理化学研究所仁科加速器研究センター | 2016年8月5日（夏休み期間）

アジアで初めて発見された新元素「ニホニウム」(113番元素)。その元素がまさに誕生した現場を見学し、「発見の瞬間」の雰囲気を味わいました。研究者と対話した参加者の先生たちは「見えないモノを探る」「研究者の思いを考える」「私たちもみんな科学者」といったメッセージを含む授業案をつくりました。



新元素の発見に取り組む研究現場で研究者に説明を聞く



ワークショップでチームごとに授業案を発表



サブテキスト「私たちの体は宇宙からやってきた！」

第2回 東京大学生産技術研究所 | 2016年12月26日（冬休み期間）

「住まい」をテーマに、研究者たちに話を聞きました。現代の生活に合った「木」の活用法を聞いたり、天井落下事故を題材に21世紀の人材の育て方のヒントを得たりしました。ワークショップでは、「落下運動を学ぶ」「家をつくろう」など、具体的なテーマの授業案が発表されました。



研究者から木造建築について説明を受ける



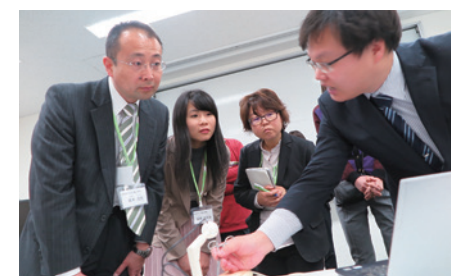
身近な疑問などを研究者に投げかける



サブテキスト「私たちに家を作る知恵がある！」

第3回 早稲田大学先端生命医科学センター | 2017年3月28日（春休み期間）

医学と工学の融合が実践されている研究現場で、医師の初心者が縫合の練習するときに使うロボットや、血管治療器具の耐久試験装置など、さまざまなロボット技術の成果に触れました。参加した先生たちからは「腕が動くしくみをつくってみよう」や「ロボットとどうつきあうかを考える」などの授業案が出ました。



医師の手技練習用ロボット装置に興味津々



研究者と小・中学校の先生が一同に会する



サブテキスト「私たちの未来はロボットと共にある！」

逆風下の変革リーダーシップ養成講座 (GRLP : Global Resilient Leadership Program)

真のリーダーを養成するためのプログラムです。経営改革を断行し、持続的成長を遂げている日産自動車の実践的事例を題材としたケースメソッドと、経営学の観点でリーダーシップの要諦を研究している研究者たちの理論のレクチャーの両面から、変革を起こせるリーダーシップを学んでいただきます。

2016年度開催の講座

第1回

ウォートンスクール、早稲田大学ビジネススクール、日産自動車・日産財団の連携による講座

2016年7月11日～15日

米国トップランクのビジネススクールであるペンシルベニア大学ウォートンスクールの教授陣が講師として講義に参加しました。各プログラムでは、「日産リバイバルプランに於ける戦略的チャレンジ」などの実践面と「大企業におけるイノベーション管理」などの理論面から講義を展開。日産自動車の志賀俊之講師（当財団理事長）、そしてカルロス・ゴーン講師との質疑応答などを通じて、受講者たちに対してレジリエント・リーダーシップの養成を図りました。



ウォートン・スクールの講師が熱弁をふるう



緊張感あるなかでの質疑応答

第2回

IMD、早稲田大学ビジネススクール、日産自動車・日産財団の連携による講座

2016年10月23日～27日

世界で最も優れたビジネススクールの一つであるIMDの教授陣が講義に参加しました。海外企業を事例にグローバルリーダーシップについての講義では、「信頼」「熱意」「団結力」「知識」などの重要性を説きました。ゴーン講師との質疑応答では、「日本人がリーダーになる上での課題とは」という質問に、ゴーン講師が「日本人には、厳しい評価を伝えるのを避けようとする傾向がある。だが、相手に厳しい評価を明確に伝えて、もっとできるはずだと促すほうが、ずっとよい」と応え、受講者たちを激励しました。



IMDの講師によるケース・メソッド式の講義



多様な質問に応えるカルロス・ゴーン講師

講師

※役職や経歴は2016年度時点のもの。

The Wharton School of the University of Pennsylvania



Prof. Harbir Singh
[PhD, University of Michigan]

- Mack Professor of Management
- Co-Director : Mack Institute for Innovation Management
- Vice Dean : Global Initiatives



Prof. Michael Useem
[PhD, Harvard University]

- William and Jacalyn Egan Professor of Management (Leadership & Change Management)
- Director: Wharton Leadership & Change Management
- Editor: Wharton Leadership Digest



Assoc Prof. Saikat Chaudhuri
[PhD, Harvard University]

- Associate Professor of Management
- Executive Director : Mack Institute for Innovation Management
- Interim Director : Jerome Fisher Management & Technology Program

IMD (International Institute for Management Development)



Prof. Martha Maznevski
[PhD, Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario]

- Professor of Organizational Behavior and International Management
- カナダ国籍



Prof. Cyril Bouquet
[PhD, Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario]

- Professor of Strategy
- フランス/カナダ国籍

早稲田大学ビジネススクール



太田 正孝 教授
[博士（商学）]

- 早稲田大学大学院商学研究科長、早稲田大学 常任理事（教務・国際担当）を経て現職
- 早稲田大学商学学術院教授
- 早稲田大学アジア・サービス・ビジネス研究所 所長



池上 重輔 准教授
[博士（経営学）/英国ケンブリッジ大学MBA]

- BCG、マスターフーズ、ソフトバンク、ニッセイキャピタル等を経て現職
- EUビジネスマン日本研修プログラム(ETP) アカデミック・コーディネーター

日産自動車／日産財団



カルロス ゴーン
[日産自動車 会長兼社長、最高経営責任者（CEO）]

- フランス国立高等鉱業学校工学部学位取得、卒業
- ブラジルミシュランおよび北米ミシュラン取締役社長などを経て、2016年現在、日産自動車株式会社取締役会長兼社長および最高経営責任者、ルノー取締役会長および最高経営責任者



- 志賀 俊之**
[日産財団 理事長、日産自動車 副会長、産業革新機構 会長]
- 大阪府立大学経済学部卒業後、日産自動車株式会社入社
 - 同社企画室長およびアライアンス推進室長、常務執行役員、最高執行責任者などを経て、2016年現在、同社副会長、産業革新機構会長および日産財団 理事長

Column

講義のエッセンスを本にしました！

各プログラムの最終日に設けた「カルロス・ゴーン講師との質疑」の内容を再録し、アカデミックな解説を加えた書籍を出版しました。リーダーシップのとり方のヒントが満載です。

『カルロス・ゴーンの経営論』
公益財団法人日産財団 監修
太田 正孝・池上 重輔 編著
2017年2月9日発行

